京都名刹の寺宝、
大阪・中之島で
一挙初公開！

国宝展

醍醐寺

開創1150年記念



重要文化財　如意輪観音坐像
平安時代（10世紀）
京都・醍醐寺蔵

Press Release

Celebrating
the 1150th anniversary
of the Founding of

Daigoji Temple

and its National Treasures

◎会　　場：大阪中之島美術館 4階展示室
◎開場時間：午前10時―午後5時（入場は午後4時30分まで）
◎休 館 日：月曜日、7月23日（火）。
　　ただし7月15日（月・祝）、8月12日（月・休）は開館。
◎主　　催：大阪中之島美術館、総本山醍醐寺、
　　日本経済新聞社、テレビ大阪
◎協　　賛：伊藤園、エア・ウォーター、大阪商工信用金庫、
　　サラヤ、住友林業、ダイキン工業、
　　大和証券グループ
◎協　　力：奈良国立博物館

醍醐寺 開創 1150年

前期　6月15日（土）～7月21日（日）
後期　7月24日（水）～8月25日（日）

2024. 6.15（土）―8.25（日）

大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

開催趣旨

京都の名刹、醍醐寺所蔵の寺宝を紹介する「開創1150年記念　醍醐寺　国宝展」を大阪中之島美術館（所在地：大阪市北区／館長：菅谷富夫）にて2024年6月15日（土）～8月25日（日）の期間、開催します。

京都市伏見区に位置する醍醐寺は、平安時代前期の貞観16年（874）に理源大師聖宝（りげんだいしょうぼう）によって開創されて以来、真言密教の拠点寺院として、歴代の皇族や公家、武家の信仰を集め歴史の表舞台において重要な役割を果たしてきました。
醍醐山山上（上醍醐）と山裾（下醍醐）の二つの伽藍からなる醍醐寺は、山の寺としての性格を持ち、国家安泰や祈雨など種々の祈願の場として、また江戸時代初期からは修験道の拠点寺院として発展してきました。

本展では、「山の寺　醍醐寺」「密教修法のセンター」「桃山文化の担い手」の三つの章に加えて、醍醐寺の特徴を紹介するコーナー展示「秘法継承」「密教法具―神秘の造形」「修験の寺」「引き継がれる聖宝の教え―顕密兼学の精神」「醍醐寺の近代・現代美術」を設け、醍醐寺に伝わる国宝14件、重要文化財47件を含む約90点の宝物を大阪で初めて大規模にご紹介します。秀吉や北政所が愛した桜にまつわる寺宝も華やかに花を添えるなど、その歴史と美術を展観する貴重な機会となります。

この夏、大阪・中之島にパワースポット出現！

見どころ



重要文化財
《金剛夜叉明王像》
平安時代（12世紀）
※前期（6/15～7/21）のみ展示

※以下、掲載作品はすべて醍醐寺蔵。
作品画像はすべて奈良国立博物館提供。

1 国宝14件、重要文化財47件一挙公開！！

7万点以上の国宝を所蔵する醍醐寺(※)。開創1150年を記念して厳選した国宝14件、重要文化財47件を含む約90点の名宝を一挙公開いたします。
※2013年に69,378点に及ぶ醍醐寺文書聖教が国宝に指定されました。

2 豊臣秀吉が愛した醍醐寺！！

豊臣秀吉は応仁の乱で荒廃した醍醐寺の復興を強力にサポート。秀吉が主催した「醍醐の花見」はまさに絢爛豪華。本展では秀吉の肖像画や俵屋宗達筆の舞楽図屏風をはじめとした華やかな近世文化の展示も大充実です。

3 コーナー展示でミステリアスな密教世界を体感！！

5つのトピックに分けて密教の世界をご案内。初めて仏教美術をご覧になる方にも楽しんでいただけます。数々の騒乱を越えて現代に伝わる祈りの空間が大阪中之島美術館に！

さらに！

醍醐寺 × 最新テクノロジー

未来型関連展示・イベントも！！

醍醐寺の法要により魂が吹き込まれた、落合陽一氏による作品「オブジェクト指向菩薩」の展示や、慶應SFCの先端技術を応用したデジタル曼荼羅ライブなど、盛りだくさん！！

開催概要

開創1150年記念　醍醐寺　国宝展

会期　2024年6月15日（土）～8月25日（日）※会期中に展示替えがあります
前期 6月15日（土）～7月21日（日）　後期 7月24日（水）～8月25日（日）

会場　大阪中之島美術館　4階展示室　〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-1

開場時間　10:00～17:00（入場は16:30まで）

休館日　月曜日、7月23日（火）※7月15日（月・祝）、8月12日（月・休）は開館

観覧料

券種	一般	高大生	小中生
前売・団体	1600円	900円	300円
当日	1800円	1100円	500円

※前売券販売期間は4月15日（月）～6月14日（金）。

主催　大阪中之島美術館、総本山醍醐寺、日本経済新聞社、テレビ大阪

協賛　伊藤園、エア・ウォーター、大阪商工信用金庫、サラヤ、住友林業、ダイキン工業、大和証券グループ

協力　奈良国立博物館

監修　内藤 栄（大阪市立美術館 館長）

展覧会構成　第1章：山の寺　醍醐寺
第2章：密教修法のセンター
第3章：桃山文化の担い手

展覧会ホームページ　https://nakka-art.jp/exhibition-post/daigoji-2024/

展覧会構成

第1章　山の寺　醍醐寺



重要文化財
《如意輪観音坐像》
平安時代（10世紀）

醍醐寺は醍醐山の頂上にある上醍醐と、山麓の下醍醐に広大な寺領を有している。今日、多くの参詣者は下醍醐までで、上醍醐まで登る人は少ない。しかし、本来醍醐寺の始まりは上醍醐にある。平安時代前期の貞観16年（874）、理源大師聖宝が笠取山の山頂に草庵を結び、准胝（じゅんてい）観音と如意輪観音をまつったのが醍醐寺の始まりである。やがて醍醐寺は醍醐天皇の御願寺となり、天皇の庇護のもと上醍醐に薬師堂や五大堂が建立された。薬師堂には今日に伝わる薬師三尊像をはじめ、今回展示の吉祥天立像や帝釈天騎象像などがまつられた。また、五大堂の五大明王像は四躯が江戸時代に再興されたものであるが、大威徳明王像は創建期の像であり、創建期に遡る初期密教像として貴重である。

延長4年（926）、下醍醐に釈迦堂が建立され、天暦5年（951）には下醍醐に五重塔が建立された。こうして醍醐寺は上醍醐と下醍醐の二伽藍からなる大伽藍となったが、上醍醐は開祖聖宝ゆかりの聖地として特別な信仰を集め続けている。

室町時代の文明2年（1470）、下醍醐は兵火によって五重塔を残して灰燼に帰したが、上醍醐には兵火が及ばなかった。今日、私たちが醍醐寺の初期に遡る優れた文化財を見ることができるのも、上醍醐と下醍醐という特殊な伽藍構成であったことが大きい。

第2章　密教修法（すほう）のセンター

古来、人々は国の安泰や五穀豊穣、あるいは健康や家内安全など、さまざまな願いを仏に祈ってきた。とりわけ密教の修法（加持・祈祷の作法）は種々の願いに対応する多様性を有しているが、同じ修法でも寺院や流派によって作法が異なり、独自の秘法は門外不出とされることが多かった。雨乞いなら〇〇寺の誰、安産なら××寺の誰というように、特定の験力（げんりき）を有する僧侶がいる寺院には修法の依頼が集中し、皇族や貴族の信仰を集めるようになった。

平安時代から鎌倉時代にかけて醍醐寺は高名な学僧や験力の強い僧侶を輩出し、あたかも密教修法の研究センターとでも称すべき観があった。彼らは自流のみならず他流の情報も集め、詳細な記録に残した。また、修法の本尊を描くための設計図である「図像」も熱心に収集した。醍醐寺には近年国宝に指定された文書聖教7万点が伝わっているが、これらは醍醐寺の僧侶たちの数世紀にわたる研究の集積である。密教の聖教をこれほど豊かに伝える寺院はほかにない。

この章では、平安時代から鎌倉時代の作品を中心に、仏像や仏画、密教法具を展示する。皇族や貴族の信仰を集めた醍醐寺の美術品は、一流の仏師や絵師の手になるものが多い。人に恐怖心さえ起こさせるほどけの姿にも、どこか優美さがただよっているのはそのためだろう。



重要文化財
《不動明王坐像　快慶作》
建仁3年（1203）





国宝《文殊渡海図》鎌倉時代（13世紀）
※前期（6/15～7/21）のみ展示

第3章　桃山文化の担い手

《豊臣秀吉像》江戸時代（18世紀）



室町時代の文明2年（1470）、下醍醐は兵火によって五重塔を残して灰燼に帰した。復興に尽力したのが天正4年（1576）に醍醐寺座主となった義演である。義演は関白二条晴良を父に持ち、天正13年（1585）に本来皇族に与えられる称号の准三后となった人物である。復興は豊臣秀吉によるところが大きいが、義演は秀吉とも渡り合える出自と度量をあわせ持っていた。秀吉は慶長3年（1598）に贅を極めた「醍醐の花見」を行ったように、醍醐寺に対して特別な想いを持っていた。秀吉の死後も北政所をはじめとした豊臣氏による復興は続き、金堂、仁王門、上醍醐の諸堂が再興された。今日醍醐寺には三宝院の長谷川派の襖絵をはじめ、俵屋宗達の舞楽図屏風や扇面散図屏風など近世の名画が数多く伝わっている。醍醐寺は桃山の美の殿堂という密教寺院とは別の顔を持っており、それが醍醐寺の大きな魅力となっている。

徳川の世になっても醍醐寺に対する庇護は続き、堂宇や仏像の復興が行われた。当時、修験道は当山派（真言宗系）と本山派（天台宗系）などの二派に分かれ、互いに勢力を競っていた。慶長16年（1611）徳川家康は醍醐寺三宝院に属する修験を当山派と称することを許可し、真言宗の修験道の本寺と認めた。これにより、醍醐寺は全国各地の霊山で行われていた真言系の修験道を統括する寺院となった。



《金天目及び金天目台》安土桃山時代（16世紀）

重要文化財《舞楽図屏風　俵屋宗達筆》　二曲一双　江戸時代（17世紀）
※後期（7/24～8/25）のみ展示





本展の音声ガイドは
国民的な朝の顔、麒麟・川島明さんに決定！

京都府生まれ、NSC大阪校出身、と
本展にゆかりの深い川島さんに
「ええ声」で分かりやすく展覧会をご解説いただきます。



プロフィール

1997年NSC大阪校20期生。1999年、田村裕とともに、漫才コンビ・麒麟を結成。「M-1グランプリ2001」で第5位入賞を果たす。2002年、「ABCお笑い新人グランプリ」で優秀新人賞を獲得。2004年「上方お笑い大賞」で最優秀新人賞を受賞。TBSの情報バラエティ番組「ラヴィット！」にて、メインMCを務める。
趣味はイラスト、ゲーム、マンガ。

お得なチケット情報

①販売期間：4月15日（月）～5月31日（金）

お得な2枚セット券

お二人でご一緒に鑑賞 or お一人でじっくり2周目を…。
価格：一般・2枚セット 3000円（税込）

主なチケット販売場所：展覧会ホームページ、e-tixサイト（展覧会HP参照）、ローソンチケット（Lコード：51948）、
チケットぴあ（Pコード：686-916）、セブンチケット（セブンコード：105-535）、楽天チケット、
イープラス、CNプレイガイドほかで販売。（チケット購入時に手数料がかかる場合があります）

②販売期間：4月15日（月）～6月14日（金）

日経ID会員限定！お得なグッズ100円割引券付きチケット

価格：一般 1600円（税込）＋グッズ100円割引券

主なチケット販売場所：e-tixサイト（展覧会HPを参照）

関連イベント

※最新情報および申し込み方法は展覧会HP、SNSをご確認ください。

6月15日（土） 14時～15時半

大阪市立美術館　内藤栄館長　特別講演会
「醍醐寺と神秘の密教美術」
会場：大阪中之島美術館 1階ホール

6月29日（土） 14時～15時半

大阪大学大学院　藤岡穣教授　特別講演会
「醍醐寺のみほとけ ー密教と天皇の寺ー」
会場：大阪中之島美術館 1階ホール

7月15日（月・祝） 14時～15時半

醍醐寺 × 慶應SFC supported by VIE
「デジタル曼荼羅　アート＆ミュージック　ライブ」
慶應義塾大学環境情報学部　藤井進也准教授＆脇田玲教授（アーティスト）
会場：大阪中之島美術館 1階ホール



デジタル曼荼羅　アート＆ミュージック　ライブ

慶應義塾大学環境情報学部の藤井進也准教授（VIE株式会社CMO）と脇田玲教授によるデジタル曼荼羅アート＆ミュージックライブ。醍醐寺の声明と、脳に作用するニューロミュージックが「未体験の音空間」を創造。さらに音を可視化するサイマティクスや流体シミュレーションの最新技術を活用し、外面世界の音楽と内面世界の脳波から曼荼羅紋様をリアルタイムに描きます。両界曼荼羅に象徴される真言密教の世界観や、我と仏とが一体化する「入我我入」の境地を音と映像で表現します。

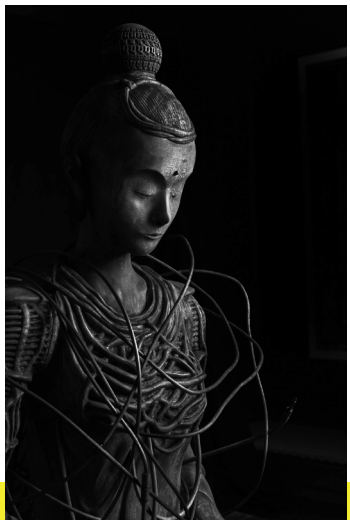
7月28日（日） 14時～15時半

醍醐寺 仲田順英執行 × 落合陽一氏
オブジェクト指向菩薩報告法要＆トークセッション
会場：大阪中之島美術館 1階ホール


落合陽一氏
photo: Jun Sugawara

7月24日（水）～8月22日（木）（予定）

オブジェクト指向菩薩展示
会場：大阪中之島美術館 2階多目的スペース


オブジェクト指向菩薩
photo by Yoichi Ochiai

メディアアーティスト・落合陽一氏が制作した「オブジェクト指向菩薩」を展示。デジタルも含めた新しい自然“デジタルネイチャー“の中で、オブジェクト指向の考え方に基づいて構造化された菩薩です。プロンプトの文字データから生まれた2Dデータから3Dデータを制作し、カリモク家具のCNC（コンピュータ数値制御）によって成形され、飛騨の木工職人によって仕上げられました。醍醐寺の開眼法要により、魂が吹き込まれ、物質と非物質の世界を繋ぎ、多様な計算法と実存を超越して調和をもたらします。

《 報道関係者お問い合わせ先 》
「開創1150年記念　醍醐寺　国宝展」PR事務局（株式会社TMオフィス内）
担当：馬場・永井・西坂
TEL：090-6065-0063（馬場）　090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919　FAX：06-6231-4440　E-MAIL：daigoji@tm-office.co.jp